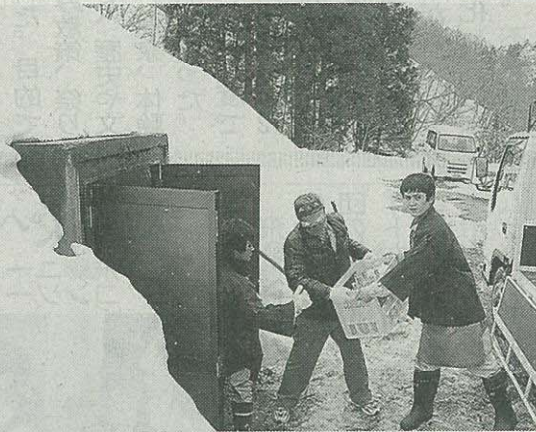


飛驒で雪中酒の蔵入れ



雪室に6000本の雪中酒を運び入れる蔵人ら。飛驒市河合町で

ひんやり 夏まで熟成

飛驒市河合町特産の越の山あいに設けた雪「雪中酒」の蔵入れ作業が十四日、河合町稲

ともにも箱詰めし、夏に全国に発送する。雪中酒は豪雪を逆手にとった町おこしにと二十年前に始まった。当初は五百本(七百二十リットル)だったが、夏季に涼感を届ける試みが受け、順調に数を増やし、七年ほど前から毎年六千本を出荷。今季も年明けに天生の山麓から採取した湧き水を使い、飛驒市古川町の渡辺酒造店が仕込んだ酒を六千本作った。

雪室はかまぼこ形で幅三十センチ、高さ十センチ、奥行き十センチほど。内部に四十平方センチほどの部屋があり、気温一度前後で四月ほど熟成させる。十四日は蔵人や商工会職員が集まり、酒瓶の入ったケースを手渡しで、次々に雪室の中に運び入れた。

事件事故

◆民家火災で2人が 14日午前6時20分ごろ、瑞穂市古橋、無職池田博さん(83)方から出火、木造2階建て住宅延べ200平方メートルのうち、1階の寝室20平方メートルを焼いた。池田さんが全身に重いやけどを負い、長男勉さん(50)も顔に軽いやけど

北飛驒商工会会長の清水昭南さん(モ)は「今季は寒かったため雪が溶けず、室の雪集めが楽だった」と話した。二十年を記念し、商工会は式典を開いた商品に景品を付けたりすることを検討している。(島将之)